mark levinson®

MADRIGAL AUDIO LABORATORIES

REMOTE CONTROLLED
PRE AMPLIFIER

No.320S/No.326S

取扱説明書

harman international
ハーマンインターナショナル 株式会社

1.はじめに

このたびは、マークレビンソン No.320S/No.326S プリアンプをお買い上げ戴きありがとうございます。ご使用前に必ずこの取り扱い説明書をお読み戴き、正しい操作で、末長くご愛用下さい。

2.開梱にあたって

外観、機能共に完全な状態でお届けされたことと存じます。もし、万一損傷や故障が認められた場合は、直ちにご購入店にご連絡下さい。
オリジナルの梱包材は、緩衝材等を含め開梱後もお手元に保存下さるようにお薦めします。修理等のために製品を輸送されるような場合、オリジナル梱包以外のもので行った不完全な梱包により損傷が生じても、責任を負いかねますのでご注意下さい。

3.付属品

本体の他に、下記の付属品が納められていますのでお確かめ下さい。

●AC 電源ケーブル(3P-2P 変換ﾌﾟﾗｸﾞ付き)	× 1
●リモートコントローラー	× 1
●5/64 インチ六角レンチ(ﾘﾓｺﾝ用ﾊﾞｯﾃﾘｰ交換用)	× 1
●3/32 インチ六角ドライバー	× 1
●リモコン用バッテリー(単四乾電池,本体組込済)	× 2
●設置用白手袋	× 1 組

4.保証について

保証は製品に添付された保証書の規定に基づいて行われますので、保証書をよくご覧下さい。また、製品の仕様、外観は予告無く変更される場合がありますのでご了承ください。
仕様変更、バージョンアップなどに伴うアフターサービスは、保証期間の有無にかかわらず有償となります。また、その際の送料はお客様負担となりますのでご了承下さい。

5.設置

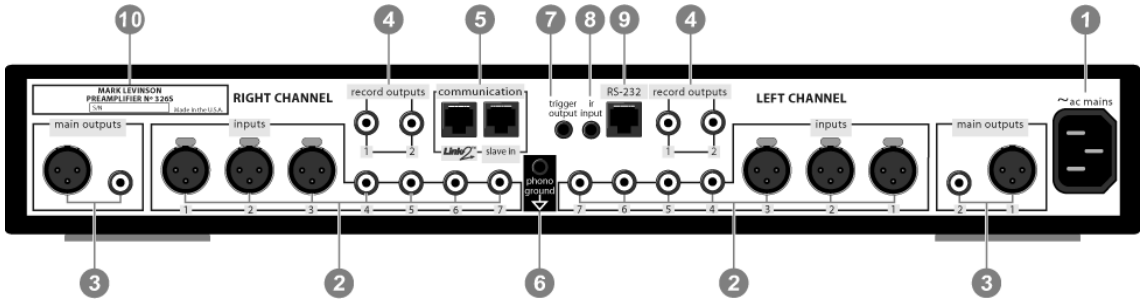
設置に際しては、ヒーターやストーブなどの近く、湿気やホコリの多い場所、直射日光の当たる場所などを避けて、しっかりとした台の上に設置してください。ラックやキャビネットの中に設置することもできますが、空気の循環によって熱の拡散が行えるよう、周囲に空間を設けてください。

6.電源

本機は、日本国内でのご使用に合わせて 100V(50Hz/60Hz)にセットされ、出荷されています。製品底面のラベルの表示が、使用地域の AC 電源に合っているか確認してください。

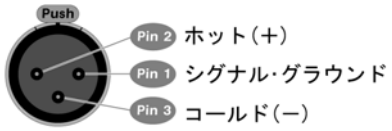
7.リアパネル各部の名称と働き

リアパネルの各部の接続は、接続するすべての機器の電源を切ってから行って下さい。



①AC 電源入力ソケット(～ac mains)
AC 電源ケーブルを用いてコンセントに接続します。本機には、３極 IEC ソケット付き AC ケーブルが付属していますので、このソケットを本機の AC 電源入力端子に接続した上で壁の AC コンセントに接続してください。

②入力端子(inputs)
ソース機器との接続に使用します。ソース機器の左チャンネル用ケーブルを“LEFT CHANNEL”表示側のコネクターに、右チャンネル用ケーブルを“RIGHT CHANNEL”表示側のコネクターに接続します。
XLR コネクターによるバランス出力を持つソース機器との接続には、１～３の XLR 型入力端子を、RCA コネクターによるアンバランス出力しか持たない機器との接続には、４～７の RCA 型入力端子を使用します。本機のクォリティーを最大限に引き出すため、ソース機器との接続にはバランス入力の使用をお薦めします。
本機の XLR コネクターは、以下のピン配列になっています。



XLR入力端子

本機に別売のフォノイコライザー･モジュールを内蔵させている場合は、7 の端子がフォノ入力専用に設定されます。アナログプレーヤーや MC ヘッドアンプなどのフォノレベル出力の機器以外は接続しないでください。
本機は、入力端子毎に増幅率(ゲイン)、感度(オフセット)を設定することができます。詳しくは **10.セットアップの変更**の入力設定の項をご覧ください。

③メイン出力端子(main outputs)
パワーアンプへの接続に使用します。パワーアンプの左チャンネル用ケーブルを“LEFT CHANNEL”表示側のコネクターに、右チャンネル用ケーブルを“RIGHT CHANNEL”表示側のコネクターに接続します。
XLR コネクターによるバランス入力を持つパワーアンプとの接続には、XLR 型出力端子を、RCA コネクターによるアンバランス入力しか持たないアンプとの接続には、RCA 型出力端子を使用します。No.320S/No.326S のクォリティーを最大限に引き出すため、接続にはバランス出力の使用をお薦めします。

XLR出力端子

④録音用出力端子(record outputs)
CD-R や MD などの録音機能のある機器に本機から信号を出力します。録音出力端子からは、ソースとして選択された信号と同一信号が出力されます。

注意：録音機器が録音モードの時にその録音機器が接続された入力端子を選択すると、信号が本機と録音機器との間で行き来し、発信を起こす危険があります。これを避けるため、出荷時には入力が録音出力端子から出力されないよう初期設定されています。このため、録音機器を接続する場合には **10.セットアップの変更**の項目に従い使用するソース機器の設定時に録音出力端子の指定を行う必要があります。

⑤コミュニケーション・ポート(communication/Link2,slave in)
別売のコミュニケーション･ケーブルを用いて他のマークレビンソン製コンポーネントと接続することにより、機器を連携させて様々なコントロールが可能になります。

Link 2™ポート

Link2 表示のコミュニケーション･ポートを持つマークレビンソン製パワーアンプと接続することにより、プリアンプ側の操作でパワーアンプのスタンバイ/オンのコントロールが行えます。また、パワーアンプに異常が発生した際にプリアンプのディスプレイにその内容を表示する機能も装備しています。
接続の際は、別売の 8P-6P コミュニケーション･ケーブルを本機の Link2 ポートとパワーアンプのスレーブ･イン(slave in)ポートに接続します。同時に６台までのパワーアンプを接続、リンクさせることが可能です。

Slave in ポート

別売のコミュニケーション･ケーブルを用いてマークレビンソン製 CD プレーヤーやデジタルプロセッサーに接続することで、以下のコミュニケーション･コントロールが可能です。接続の際は、別売の 8P-8P コミュニケーション･ケーブルを本機の slave in ポートとソース機器のマスター/スレーブ･アウト(master/slave out)ポートに接続します。

◆スタンバイ･リンク： 接続された機器の電源を同時にスタンバイから動作モードにします。

◆プレイ･リンク： CD プレーヤーのプレイボタンを押すと、本機は自動的にその機器が接続されている入力端子を選択します(ただし、あらかじめ入力名にそのソース機器の品番を指定しておく必要があります)。

◆ディスプレイ･リンク： 接続された機器のディスプレイ輝度を同時に調整します。

◆ボリューム･リンク： マークレビンソンの CD プレーヤーに付属のリモートコンにて、プリアンプの入力セレクトが行えます。リモコンの“select”ボタンを押し続けることで、プリアンプの入力セレクトと CD プロセッサーの入力セレクトとを使い分けられます。

◆HDCD リンク： 高品質の HDCD(高品位 CD)ソフトの再生時の音量補正をプリアンプ側で自動的に行います。

コミュニケーション･ケーブルをご入用の際は、本機のご購入店または弊社サービスセンターへご相談下さい。

⑥フォノ･アース端子(phono ground)

オプションのフォノイコライザー･モジュールを装着時し、アナログプレーヤーを接続する際、プレーヤーまたはトーンアームのアース端子と接続します。

⑦トリガー･アウトプット端子(trigger out)

欧米製の AV 機器に広く用いられている DC トリガー式のコントロール端子です。3.5Φミニプラグ付きケーブルを接続することにより、本機のスタンバイ・ボタンの操作により接続された他の機器の電源をスタンバイ/オンできます。本機のトリガー出力は 12V DC 出力に設定されていますが、5V パルス出力に変更することも可能です。詳しくはセットアップの項をご覧ください。

⑧赤外線リモコンジャック(ir input)

市販の赤外線受光機を接続することにより、受光機を設置した場所から本機をリモコン操作できます。接続には 3.5Φミニプラグ付きケーブルを使用します。

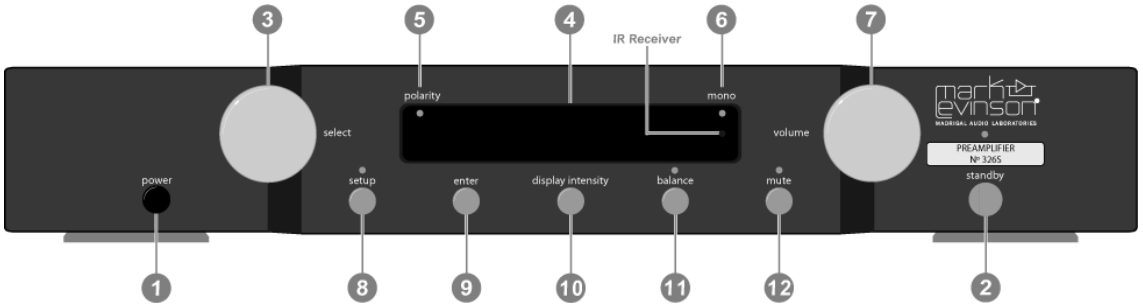
⑨RS-232 コンピューター・コミュニケーション端子(RS-232)

本機のソフトウェアのバージョンアップやコンピューターを用いたコントロールなどに使用するコンピューター接続用ポートです。コンピューターとの接続には専用のアダプターとソフトウェアが必要ですので、むやみに接続しないようお願いします。

⑩シリアルプレート

本機の型番とシリアル･ナンバーが刻印されています。アフターサービスなどを受ける際必要になる場合がありますので、番号を控えておかれることをお奨めします。

8.フロントパネル各部の名称と働き



① メイン電源スイッチ(power)
ボタンを押し込むと本機の主電源が入り、内部設定モードの検索後スタンバイ･インジケーターが点滅しスタンバイの状態になります。ボタンを押して数秒間、ディスプレイやインジケーター表示が全く点灯しなくなりますが、これは本機が電源コンディションを確認しているためで、異常ではありません。
メイン電源スイッチがオンの時、本機の主要オーディオ回路は通電状態にあり、起動と共にすぐに最高の音質が発揮できるように設計されています。また、内部コンディションを常に安定させることにより本体寿命を最大限確保することが出来ます。長期に渡り外出する場合を除き本機のメインパワーは常時通電しておくことをお勧めします。
② スタンバイ･ボタン(standby)
このボタンを押すことにより、本機はスタンバイ･モードから動作状態に入り、スタンバイ･インジケーターとディスプレイが点灯してフロントパネル･コントロールが操作可能となります。もう一度ボタンを押すとスタンバイ･モードに戻り、インジケーターがゆっくりと点滅します。スタンバイ･ボタンは本機を使用しない時にディスプレイを消し、フロントパネルのコントロール機能を停止させるために設けられています。
③ ソース選択ノブ(select)
ノブの操作により、背面に接続された入力の選択を行います。ソースを選択するとディスプレイに数秒間ソース名と入力端子の番号が表示された後、ソース名とボリューム値の表示に戻ります。入力設定にて不要な入力番号を【unused】に設定しておくと、その入力はソース選択ノブでは選択されなくなり、無駄な操作を省くことができます。10.セットアップの変更の手順にて入力の設定を行ってください。
セットアップ時や各種モードボタン操作時には、ソース選択ノブは設定/操作メニュー項目の切り替え機能に切り替わります。
④ディスプレイ
本機のディスプレイには以下の情報が表示されます。
◆ソース名
選択されている入力ソースの名称が表示されます。登録済みの名称から選択する他、アルファベットと数字、記号を組み合わせてオリジナルの名称を作成して表示させることができます。詳しくは10.セットアップの変更の項目をご覧ください。
◆音量表示
再生中の音量目盛りが【OFF】から最高値【80.0】までのデシベル数値で表示されます。
◆入力端子番号
ソース選択時、選択された入力端子の番号が数秒間表示されます。
セットアップ時や各種モードボタン操作時には、本機のディスプレイは設定/操作メニュー表示や機能表示に切り替わります。
⑤ポラリティー･インジケーター(polarity)
リモコンのポラリティー･キー(polarity)を押すと点灯し、位相反転した信号が出力されていることを示します。
⑥モノラル･インジケーター(mono)
リモコンのモノラル･キー(mono)を押すと点灯し、モノラル音声が出力されていることを示します。
⑦ボリューム･ノブ(volume)
音量の調整を行います。ノブを時計方向に廻すとディスプレイに表示された数値が大きくなり、音量が増加します。ノブを反時計方向に廻すとディスプレイの数値が小さくなり音量が減衰します。音量が絞り切られると、ディスプレイは【OFF】の表示になります。
本機はボリューム表示の 23.0 までは 1.0dB ステップで、23.0 以上では 0.1dB ステップでの音量調整が可能です。また、ボリューム･ノブの回転速度に比例して音量の変化量が変わるバリアブル･レゾリューション機能を搭載していますので、ノブを速く操作すると音量が大きく変化し、ノブをゆっくり廻すと音量が少しずつ変化します。
セットアップ時や各種モードボタン操作時には、ボリューム･ノブは設定/操作メニュー項目の調整機能に切り替わります。
⑧セットアップ･ボタン(setup)
入力設定やミュートレベル調整などを行うセットアップモードへの切り替えボタンです。ボタンを押すとインジケーターが点灯し、セットアップ･モードに入ります。もう一度ボタンを押すと通常の動作モードに戻ります。

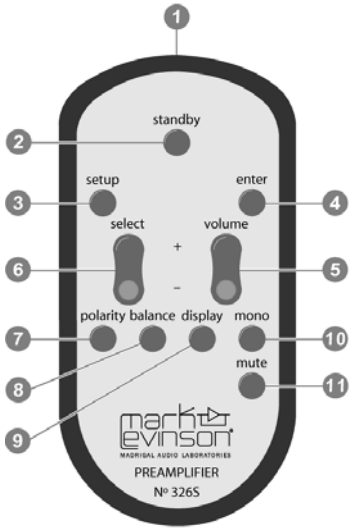
⑨エンター･ボタン(enter)
セットアップ･モードにおいて、選択項目の決定ボタンとして働きます。
⑩ディスプレイ照度切り替えボタン(display-intensity)
ボタンを押すことによりディスプレイと各インジケーターの明るさが４段階に変わります。ボタンを一度押すとディスプレイ照度は一段階暗くなります。さらにボタンを押すことで順次暗くなり、最後に消灯されます。この時、各インジケーターも順次暗くなり最後は最も暗い状態で点灯します。さらにもう一度ボタンを押すとディスプレイとインジケーターは最も明るいレベルに戻ります。
⑪バランス･ボタン(balance)
ボタンを押すとボタン上のインジケーターが赤く点灯し、ボリュームノブが左右の音量バランスの調整機能に切り替わります。ノブを右に廻すことで左チャンネルの音量が 0.1dB ずつ減衰し、最後に右チャンネルの音だけになります。ノブを左に廻すと右チャンネルの音が 0.1dB ずつ減衰し、最後に左チャンネルの音だけになります。ノブの操作後、もう一度ボタンを押すか数秒待つと、ノブは通常ボリューム操作のモードに戻ります。この時、音量バランスを左右どちらかにずらしている場合は、バランス･インジケーターが点灯したままになり、バランスが補正されていることを明示します。
⑫ミュート･ボタン(mute)
ボタンを押すとボタン上のインジケーターが点滅し、音量が 20.0dB 減衰します。もう一度ボタンを押すとインジケーターが消えて元の音量に戻ります。また、ミュート状態でボリュームを操作すると、ミュートが解除されてミュートが掛けられたレベルから音量が変化します。
本機ではミュート･ボタンの操作による音量の減衰量を-1dB～-60dB まで変更することができます。詳しくは **10.セットアップの変更**の項目をご覧ください。

9.リモコンによる操作

付属のリモートコントローラーを使用すると、本体フロントパネルと同じ機能の操作に加え、追加機能の操作が可能です。
以下のリモコン･キー操作は、本体フロントパネルの各機能と同一機能を持ちます。

リモコン･キー	フロントパネル	用途
②standby	②standby	スタンバイ
③setup	⑧setup	セットアップ
④enter	⑨enter	エンター
⑧balance	⑪balance	バランス
⑨display	⑩display-intensity	ディスプレイ照度
⑪mute	⑫mute	ミュート

その他の機能は以下の説明をご覧ください。
①赤外線発信部
赤外線コントロール信号の発信部です。本体ディスプレイ右の赤外線受光部(IR Receiver)に向けてリモコンを操作してください。
⑤ボリューム･キー(volume +/-)
キーを押すことで音量調整ができます。“+”側のキーを押す毎に１ステップ音量が大きくなり、“-”側のキーを押す毎に１ステップ音量が小さくなります。また、キーを押し続けると最初の 1.5 秒間はゆっくりと、その後は徐々に音量の変化が早くなります。
⑥ソース選択キー(select +/-)
キーを押すことで入力ソースの切り替えが行えます。
⑦ポラリティー･キー(polarity)
本機の出力位相を反転させ、録音過程で起こった位相の違いやバランス接続時のホット/コールドのピン配列の違いなどに起因する位相の反転を補正できます。キーを押すと本体のポラリティー･インジケーターが点灯し、位相が反転されます。再度キーを押すことでインジケーターが消え、位相が正相に戻ります。
⑩モノラル･キー(mono)
ボタンを押すことにより本体ディスプレイのモノラル･インジケ



ーターが点灯し、左右チャンネル信号を合成したモノラル音声が出力されます。本機のモノラル出力は以下の４つのモードから選択することが出来ます。

◆L+R
左右の信号を合成したモノラル音声が出力されます。ボーカルソースなどを用いてスピーカーや部屋の構造に起因した左右のレベルバランスの違いの確認に利用出来ます。

◆L ONLY
左チャンネルの入力信号のみを両チャンネルから出力します。

◆R ONLY
右チャンネルの入力信号のみを両チャンネルから出力します。

◆L - R
左チャンネルの入力信号から右チャンネルの信号を差し引いた差信号が出力されます。モノラル音源を用いて、入力機器に起因する左右のレベルバランスの違いの確認に利用できます。

モノラル･モードの切り替えは以下の手順で行います。

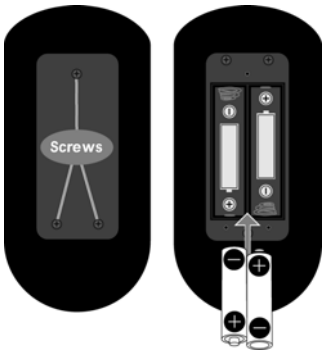
1.リモコンのモノラル･キーを押し続けます。ディスプレイに現在のモノラル･モードが表示されます。
2.モノラル･キーを押す度にモノラル･モードの表示が【L + R】→【L ONLY】→【R ONLY】→【L - R】に切り替わります。希望のモードを表示させてください。
3.そのまま約 10 秒間放置すると、通常モードに戻ります。
リモコンのモノラル･キーを押すと設定されたモノラル･モードがディスプレイに表示され、モノラル音声が出力されます。(ただし、標準設定の L+R モードの場合はモード表示されず、モノラル･インジケーターによる表示のみとなります。)

[リモコンのバッテリー交換]

付属のリモコンに内臓のバッテリーは、出荷時の動作確認用です。お早めに新品のバッテリーと交換されることをお勧めします。バッテリー交換は、以下の要領で行ってください。

① リモコン背面３ヶ所のネジを＋ドライバーを用いて緩めて抜き取り、リモコンの裏蓋を外します。
② 極性に注意しながら、交換用バッテリーをリモコンに挿入します。バッテリーは必ず同一規格の物(AAA 単四型アルカリ乾電池)をご使用下さい。
③ 裏蓋を被せ、元通りに３本のネジを締め、固定します。

バッテリーを交換したら、いずれかのキーを押して動作を確認してください。



１０.セットアップの変更

本機にはさまざまなソース入力に適合させるための特別なカスタムセットアップ機能が備わっています。製品出荷時にはあらかじめ標準的な使用に合わせた設定がされていますが、これらの設定をユーザーの希望に合わせて変更することが可能です。

Ⅰ.入力設定

本機は入力ソース名やゲイン(増幅率)などを各入力毎に設定することができます。

◆**Ｎａｍｅ＝□□□□□□□□：入力ソース名**
入力ソースの名称を登録リストから選択、表示できます。
また、アルファベット(大文字/小文字)と数字、記号を組合せ、最大７文字までのオリジナル名称を作成し表示させることもできます。(入力ソース名の設定参照)

◆**Ｇａｉｎ＝ ＋□□ｄＢ　：入力ゲイン選択(0/+6/+12/+18dB)**
入力毎にアンプ部の増幅率を４段階から選べます。

◆**Ｏｆｆｓｅｔ＝±□□.□ ：入力オフセット(-20.0～+20.0dB)**
ソース毎に異なる音量レベルをソース選択時にボリューム回路で補正します。0.1dB ステップでの調整が可能です。

◆**Ｒｅｃ．Ｏｕｔ＝ＮＯＮＥ：録音出力(NONE/1/2/BOTH)**
テープデッキや CD-R、MD などに出力を送る録音用出力端子を選択します。録音機器を使用する場合には、各ソース毎に録音機器を接続する録音出力端子の番号を指定してください。

注意：出荷時には、入力が録音出力端子から出力されないよう初期設定されています。これは、録音機器が録音モードの時にその録音機器が接続された入力端子を選択した場合に、信号が本機と録音機器との間で行き来し、発信を起こす危険を避けるためです。録音機器を本機と接続する場合には、この初期設定を変更しないようにしてください。

本機の入力設定は、出荷時に以下に設定されています。

	入力 1～3(バランス入力)	入力 4～7(アンバランス入力)
ソース名	: Name = INPUT 1～3	: Name = INPUT 1～3
入力ゲイン	: Gain = +6dB	: Gain = +12dB
オフセット	: Offset = 0.0	: Offset = 0.0
録音出力	: Rec.Out = NONE	: Rec.Out = NONE

これらの設定を変更するには、以下の操作にてセットアップメニューの変更を行ってください。

① 設定を行いたい入力番号を選び、フロントパネルの“setup”ボタンを数秒間押し続けてください。
→ setup ボタンの上のインジケーターが点灯し、ディスプレイに【 Ｎａｍｅ＝□□□□□□□□ 】と表示されます。

② 左のセレクト(select)ノブを廻すと、変更可能な項目が以下の順で表示されます。
Ｎａｍｅ＝□□□□□□□□ ：入力ソース名
Ｇａｉｎ＝ ＋□□ｄＢ ：入力ゲイン選択(0/+6/+12/+18dB)
Ｏｆｆｓｅｔ＝±□□.□ ：入力オフセット(-20.0～+20.0dB)
Ｒｅｃ．Ｏｕｔ＝ＮＯＮＥ ：録音出力(NONE/1/2/BOTH)
変更が必要な項目を選び、“enter”ボタンを押してください。
→ 変更項目の【 ＝ 】表示が点滅します。

③ 右のボリューム(volume)ノブを操作すると、設定値が変わります。希望の値に変更し、“enter”ボタンを押します。
→ ディスプレイに【 ＳＡＶＩＮＧ ＤＡＴＡ 】と表示され、設定が記憶されます。

④ “setup”ボタンを押す度に前の操作表示に戻り、最後に入力名が表示されて通常動作に戻ります。
→ setup ボタン上のインジケーターが消えます。

≪ 入力ソース名の設定 ≫

本機のディスプレイには、入力ソースの名称を登録リストから選択、表示できます。また、アルファベット(大文字/小文字)と数字、記号を組合せ、最大７文字までのオリジナル名称を作成し表示させることも可能です。

Ａ．登録済みソース名からの選択

入力ソースの名称を下記サンプルから選び、ディスプレイに表示させることが出来ます。

ディスプレイ表示	ソース名の意味
ＩＮＰＵＴ １～７	初期設定/オリジナルネームの入力用※1
ｕｎｕｓｅｄ	使用していない入力の設定用※2
ＳＳＰ	サラウンド･サウンド･プロセッサー･モード※3
ＳＡＣＤ	スーパー･オーディオ･コンパクト･ディスク
ＤＡＴ	デジタル･オーディオ･テープレコーダー
ＶＣＲ	ビデオ･カセット･レコーダー(ビデオデッキ)
ＣＡＳＳ.	カセット･テープ･レコーダー(カセットデッキ)
ＲｔｏＲ	リール･トゥ･リール(オープンリール･デッキ)
ＭＤ	ミニ･ディスク
ＣＤ－Ｒ	CD レコーダブル(CD レコーダー)
ＳＡＴ	サテライト(衛星放送)
ＬＤ	レーザー･ディスク
ＣＤ	コンパクト･ディスク
ＴＵＮＥＲ	チューナー
ＡＵＸ	オグジュアリー(補助入力)
ＤＡＣ	D/A コンバーター
ＴＡＰＥ	テープデッキ
ＤＶＤ	デジタル･ビデオ･ディスク

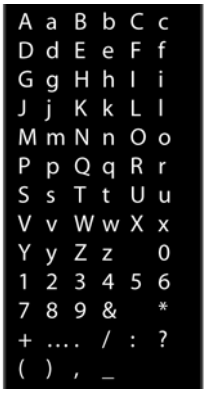
Ｎｏ３０	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.30L
Ｎｏ３０．５	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.30.5L
Ｎｏ３０．６	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.30.6L
Ｎｏ３５	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.35L
Ｎｏ３６	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.36L
Ｎｏ３６Ｓ	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.36SL
Ｎｏ３６０	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.360L
Ｎｏ３６０Ｓ	マークレビンソン･デジタルプロセッサー No.360SL
Ｎｏ３９	マークレビンソン･CD プレーヤー No.39L
Ｎｏ３９０Ｓ	マークレビンソン･CD プレーヤー No.390SL

※1:オリジナル･ネームの作成時に選択します。詳しくは **B.オリジナルソース名の作成**の項をご覧ください。
※2:使用しない入力端子を【 ｕｎｕｓｅｄ 】に設定することで不要な入力番号の選択を防ぎ、フロントパネルやリモコンよるスピーディーなソース選択が可能になります。
※3:SSP モードでは、入出力ゲインが 0dB となり、最大音量に固定されたままボリューム操作が行えなくなります。ソースの演奏中に誤って設定しないようご注意下さい。詳しくは 11.SSP モードの活用の項をご覧ください。

Ｂ．オリジナルソース名の作成

アルファベット(大文字/小文字)と数字、記号を組み合わせ、最大 7 文字までのオリジナル･ネームを入力ソース名として作成してディスプレイに表示させることが出来ます。
ネーム作成は以下の手順で行ってください。

① 上記Ａ．**登録済みソース名からの選択**において、入力名に【 ＩＮＰＵＴ　□ 】と表示させ、“enter”ボタンを押します。
→ 【 ■■■■■■■■ 】入力表示全体が点滅します。
② もう一度“enter”を押します。
→ 【 ■□□□□□□□ 】1 文字目が点滅します。
③ ボリュームノブを廻し、アルファベットや数字、記号の中から希望する文字を選び、“enter”ボタンを押します。
→ 【 □■□□□□□□ 】2 文字目が点滅します。
④ ③の操作を繰り返し、文字を選択して行きます。文字表示が不要な欄には空欄を選択してください。
⑤ 7 文字目の選択終了後、“enter”ボタンを押します。
→ 【 ＳＡＶＩＮＧ　ＤＡＴＡ 】と表示され設定が記憶されます。
⑥ “setup”ボタンを押す度に前の操作表示に戻り、最後に通常動作に戻ります。
→ setup ボタン上のインジケーターが消えます。



選択文字リスト

Ⅱ．その他の設定

ミュートボタンにより減衰する音量やボリューム調整できる最大レベルを任意に設定できます。また、リモートトリガー出力の信号切り替えや学習リモコンへの赤外線信号出力などの機能をコントロールすることができます。

〔1〕 **Ｓｅｔ　Ｉｎｐｕｔｓ：入力の設定(Ｉｎｐｕｔ　１～７)**
インプット１～７の入力設定を行います。詳しくはＩ.**入力設定**の項をご覧ください。

〔2〕 **Ｔｅａｃｈ　ＩＲ：学習リモコン用赤外線出力モード**
本機のコントロール機能を市販の学習機能付きリモコンに学習させるための赤外線信号を出力します。学習させたい機能をボリュームノブで選択し、“enter”ボタンを押してください。
→ 【 ＳＥＮＤＩＮＧーー＞ 】と表示されディスプレイ左角の赤外線発信部から赤外線信号が出力されます。
本機の赤外線信号のキャリア周波数は、最も一般的な 40kHz を採用しています。

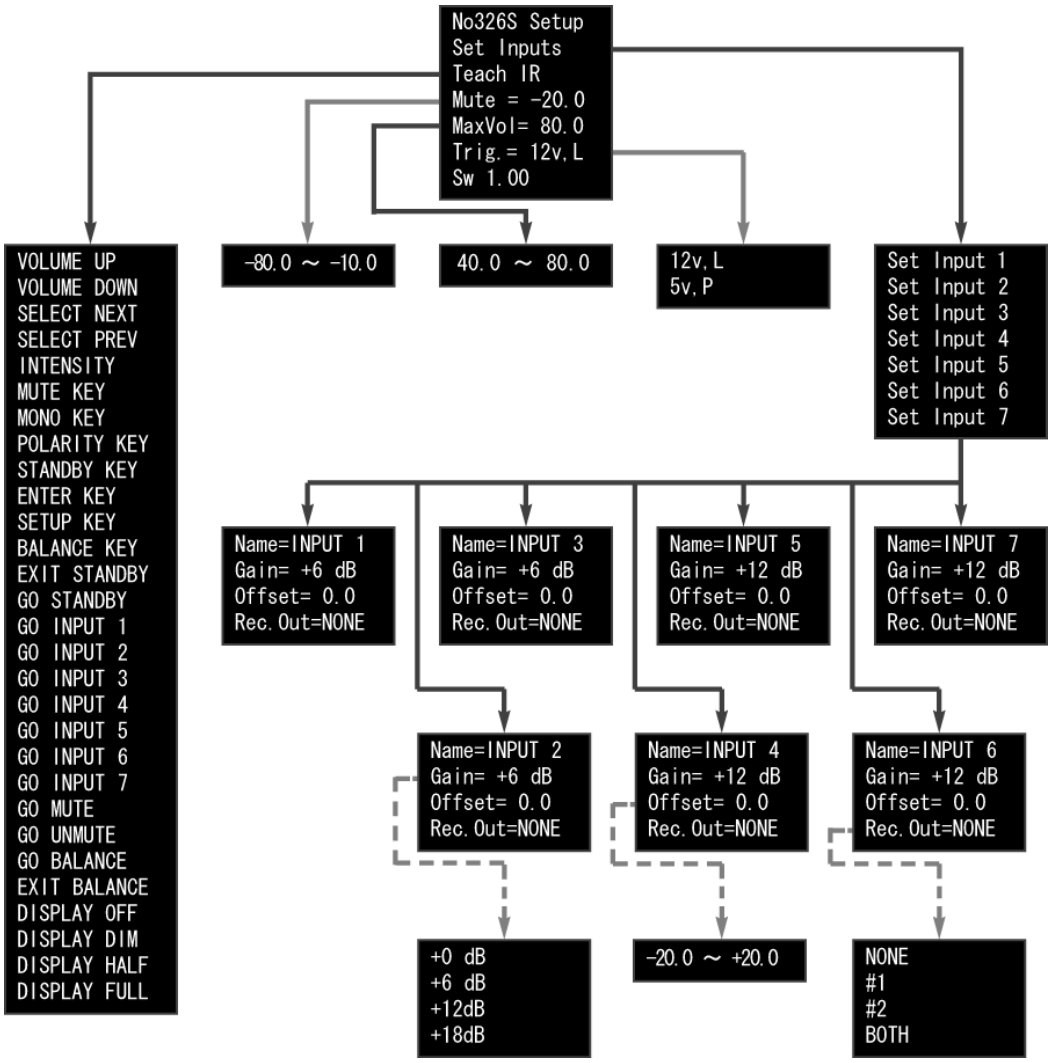
〔3〕 **Ｍｕｔｅ＝－ＯＯ．Ｏ：ミュートレベルの設定(-10.0dB～-80.0dB)**
ミュートボタンの操作により減衰する音量を-10.0dB から-80.0dB まで 0.1dB ステップで設定できます。

〔4〕 **ＭａｘＶｏｌ．＝ＯＯ．Ｏ：最大ボリュームレベルの設定(40.0dB～80.0dB)**
ボリューム操作により得られる最大音量を規制します。小さなお子様のいたずらや誤操作による大音量を防ぎ、スピーカーの破損を未然に防止できます。

〔５〕 **Ｔｒｉｇ．＝１２ｖ，Ｌ／５ｖ，Ｐ：トリガー出力の切り替え**
トリガーアウト端子から出力されるコントロール信号を12Vの連続出力(12v,L)と5Vのパルス出力(5v,P)から選択できます。

〔６〕 **Ｓｗ．Ｏ．ＯＯ：ソフトウェア･バージョン表示**
機器の製造ロット番号とプログラムされているソフトウェアのバージョンが表示されます。機器のアップデートや修理の際に必要となる場合がありますので、記録しておくことをお勧めします（この数字はバージョンアップ時以外変更できません)。

セットアップ･メニュー･チャート



これらの設定を変更するには、以下の操作にてセットアップメニューの変更を行ってください。

① フロントパネルの“setup”ボタンを押します。
→ setupボタンの上のインジケーターが点灯し、ディスプレイに【 Ｎｏ３２０Ｓ　Ｓｅｔｕｐ 】と表示されます。
② “enter”ボタンを押してください。
→ ディスプレイに【 Ｓｅｔ　Ｉｎｐｕｔｓ 】と表示されます。
③ 左のセレクト(select)ノブを廻すと、変更可能な項目が上記〔１〕～〔６〕の順で切り替わります。変更が必要な項目を選び、“enter”ボタンを押してください。
→ 変更項目の【 ＝ 】表示が点滅します(Teach IRとソフトウェア･バージョン表示を除く)。
④ 右のボリューム(volume)ノブを操作すると、設定値が変わります。希望の項目に変更し、“enter”ボタンを押します。

→ ディスプレイに【 ＳＡＶＩＮＧ　ＤＡＴＡ 】と表示され、設定が記憶されます。
⑤ “setup”ボタンを押す度に前の操作表示に戻り、最後に入力名が表示されて通常動作に戻ります。
→ setup ボタン上のインジケーターが消えます。

Ⅲ. スリープタイマー機能
セットした時間の経過後に、プリアンプを自動的にスタンバイ･モードにすることが出来ます。
① “standby”ボタンを数秒間押し続け、ディスプレイに【 ＳＬＥＥＰ－ＯＦＦ－ 】と表示させます。
② “standby”ボタンを押す度に 30 分づつ最大 4 時間まで、スタンバイになるまでの時間を調整できます。たとえば、【 １ｈｒ３０ｍｉｎ 】は 1 時間 30 分後に電源がスタンバイになることを示します。希望の時間を設定してください。
③ そのまま約 10 秒放置すると、自動的に通常モードに戻ります。
設定した時間が経過すると、本機はスタンバイ･モードになります。この時、コミュニケーション･リンクやトリガーアウトプットに接続されている機器も同時にスタンバイになります。一度タイマースタンバイ機能が動作し、機器がスタンバイ･モードになると、タイマーは自動的に解除されます。また、設定した時間が経過する前にスタンバイ･ボタンを操作するか、上記①の操作でディスプレイの表示に【 ＳＬＥＥＰ－ＯＦＦ－ 】と表示させると、タイマースタンバイ機能はキャンセルされます。

１１.SSP モードの活用

本機は、最上級のマルチチャンネル･サウンドを楽しむために、サラウンドプロセッサーと組み合わせることのできる特殊なサラウンド･サウンド･プロセッサー･モードを持ちます。本機にサラウンド･プロセッサーを接続し、オーディオ用システムとマルチチャンネル用システムを兼用する場合には、**10.セットアップの変更**の≪入力ソース名の設定≫に従ってプロセッサーを接続した入力の名称に【 ＳＳＰ 】を選択してください。

≪ ＳＳＰモードについて ≫
通常のプリアンプでは、プロセッサーの出力を入力ソースとしてプリアンプに入力すると、プリアンプのボリューム操作によって慎重に調整されたデコーダーのレベル調整を変えてしまうため、センターとサラウンドチャンネルに対するメインチャンネルのレベルバランスを崩してしまいます。本機はこのジレンマをサラウンド･サウンド･プロセッサー･モードを設けることで解決しています。本機の入力名称に【 ＳＳＰ 】が選択されると、ボリュームコントロールが無効になり、入出力レベルが一致します。このため、綿密に調整されたプロセッサーの出力レベルを狂わせることはありません。SSP モードでは、ディスプレイに【 ＳＳＰ　ＬＩＮＥ 】と表示され、ラインレベルが保持されていることを示します。この時、音量調整は接続されたプロセッサーのマスターボリュームで調整してください。

注意：SSP モードでは、入出力ゲインが 0dB となり、最大音量に固定されたままボリューム操作が行えなくなります。ソース演奏中に誤って設定しないようご注意ください。
また、一度 SSP モードに設定された入力を他の入力表示に改めた直後は、ボリュームの値が最大値(80.0dB)に設定されています。設定変更が終了し、ボリュームレベルを絞るまで、この入力に接続された機器を演奏状態にしないようご注意ください。

１２.保守

お手入れの際には、柔らかい布を使用して乾拭きするようにして下さい。汚れがひどいときには、薄い石鹸水に柔らかな布を浸し、固く絞って汚れを拭きとった後、乾いた布で拭いて下さい。ベンジン、シンナー、アルコールなどの揮発性の液体で拭いたり、近くで殺虫剤を散布したりすることは避けて下さい。
お手入れの際は、本機および本機に接続されている機器の電源を切り、接続ケーブルを外しておいて下さい。

１３.規格

入力端子		XLR バランス×3 ペア
		RCA アンバランス×4 ペア
出力端子	プリアウト：	XLR バランス×1 ペア
		RCA アンバランス×1 ペア
	レコード出力：	RCA アンバランス×2 ペア
ゲイン		0/+6/+12/+18dB
ボリュームコントロールレンジ		80.0dB(594 ステップ)
ボリューム解像度		目盛り 23.0(-57.0dB)以下：1.0dB ステップ
		目盛り 23.0(-57.0dB)以上：0.1dB ステップ
最大入力		ゲイン+18dB：1.6V/0.8V(バランス/アンバランス)
		ゲイン+12dB：3.3V/1.6 V(バランス/アンバランス)
		ゲイン+6dB：6.6V/3.3V(バランス/アンバランス)
		ゲイン 0dB：13.2 V/6.6V(バランス/アンバランス)
最大出力		14V/7V(バランス/アンバランス)
入力インピーダンス		100kΩ
出力インピーダンス		50Ω以下
周波数レスポンス		10Hz～40kHz±0.2dB
歪(THD+N)		0.001%以下
残留ノイズ		-94dBv 以下(20Hz～20kHz、入力ショート)
クロストーク		-90dB 以下
電源		AC100V(50Hz/60Hz)
消費電力		50W(最大)
外形寸法		451(W)×74(H)×357(D)mm
重量		9.1kg

写真は No.326S

harman international
ハーマンインターナショナル 株式会社

製品に関するお問い合わせは、弊社企画部 TEL03-3836-5660 まで

MKT. 2K4.11.01

東京サービスセンター：〒135-0033 東京都江東区深川 1-6-29　結城運輸倉庫(株)内　TEL03（5639）3011
本社営業部：〒110-0005 東京都台東区上野 5-7-7　公徳堂ビル　TEL03（3836）5641
大阪営業所：〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-12-15　双葉ビル 602 号　TEL06（6301）1396
福岡営業所：〒816-0844 福岡県春日市大字上白水 418-4　第２金信コーポ１Ｆ　TEL092（573）2023